

「medicina」 第28巻 総目次

1991年 第1号～第13号

数字は通巻頁数，()は号数，11号は増刊号です。

〔今月の主題〕

不整脈診療プラクティス(1)

〈editorial〉不整脈診療プラクティス	
飯沼 宏之	6
新しい用語の解説 野崎 彰	7
〈不整脈へのアプローチ〉	
どういうときに不整脈を疑うか	
飯沼 宏之	14
治療の要・不要の鑑別と緊急度の判定 比江嶋一昌	18
不整脈の成因に関する最近の考え方 有田 真	22
〈診断についてのセミナー〉	
不整脈の検査法	
一進め方の手順 山下 武志・他	30
一心電図による不整脈診断の実際 渡部 良夫・他	32
一ホルター心電図による不整脈診断の実際 平山 悦之・他	42
一負荷試験と不整脈診断 村山 正博	50
一電気生理学的検査からわかること 笠貫 宏	54
心疾患と不整脈 日吉 康長・他	64
小児不整脈の特徴 長嶋 正実・他	69
高齢者不整脈の特徴 大川真一郎	73
ペースメーカー不全 山口 巖	76
〈治療についてのセミナー〉	
不整脈治療薬の分類と使い分け 橋本敬太郎	81
新しい抗不整脈薬 新 博次	86
抗不整脈薬としてのβ遮断薬, Ca拮抗薬 内藤 政人	89
抗不整脈薬の効果判定 加藤 貴雄	92
抗不整脈薬の副作用と対策 山中 功一・他	96
抗不整脈薬による不整脈増悪 小川 聡・他	98
不整脈専門医へのコンサルテーションのタイミング 相沢 義房	102
人工ペースメーカーの適応と機種およびその選択 進藤 剛毅	106
〈不整脈治療の実際〉	
不整脈治療の進め方 東 祐圭・他	111
期外収縮 田辺 晃久・他	114
上室性頻拍 藤木 明	118
心室性頻拍 橋本 悦雄・他	122
心房細動・粗動	
一発作性 清水 昭彦・他	126
一慢性 小松 親義	128
心室細動・心臓蘇生術の実際 瀬崎 和典・他	132

洞不全症候群 池田 孝之・他	140
房室ブロック 中里 祐二・他	144
不整脈治療の外科適応 三崎 拓郎・他	150
〈トピックス〉	
Late potentialの臨床的意義 小沢友紀雄	153
R-R間隔変動と自律神経機能 矢永 尚士・他	158
Torsade de pointes 沢登 徹	162
再灌流不整脈 山崎 昇・他	166
細動誘発閾値に関する諸問題 唯井 雅博・他	170
除細動閾値に関する諸問題 村川 裕二	172
植え込み型除細動器(AICD) 大西 哲・他	174
アブレーション 鈴木 文男	178
抗不整脈薬による心臓突然死の予防 一CASTをめぐる 加藤 和三	181
アレルギー疾患診療の実際(2)	
アレルギーとはなにかーアレルギー疾患理解のために 伊藤 幸治	208
〈診断・検査のポイント〉	
診断のすすめ方 信太 隆夫	218
病歴の取り方ー問診の手順, 診断のコツ 飯塚 邦彦・他	224
皮膚テストの施行方法と判定法 早川 哲夫	228
総IgEおよびIgE抗体, IgG抗体, IgG subclass 抗体の意義 福村 正・他	230
ヒスタミン遊離試験 森田 寛	234
誘発試験の施行法と判定法ー気道過敏性測定, 吸入誘発試験(気管支喘息, 過敏性肺臓炎) 越野 健・他	236
気管支肺胞洗浄法(BAL)の方法と意義 滝沢 始	240
好酸球およびその構成成分測定の意義 阿久津郁夫・他	242
〈アレルギー疾患の鑑別診断〉	
気管支喘息, 過敏性肺炎, 呼吸器疾患, 心臓疾患 坂本 芳雄	246
アレルギー性鼻炎と他の鼻疾患 奥田 稔	250
アレルギー性皮膚疾患と自己免疫あるいは内臓疾患起因皮膚疾患 相原 道子・他	252
アレルギー性結膜炎と他の眼疾患 増田寛次郎	254
〈治療の基本〉	
抗アレルギー薬, 抗ヒスタミン薬の	

種類と使い方 富岡 玖夫	257
経口ステロイド剤の種類と使い方 一いつ使うか, いつやめるか 高橋 清	262
吸入剤(ステロイド剤, β-刺激剤, 抗コリン剤)の使い方 長谷川真紀	266
経口気管支拡張剤の使い方 堀内 正	269
アレルギー疾患における漢方薬の使い方 江頭 洋祐	276
減感作療法の実際と有効性, 今後の展望 石井 彰・他	280
非特異的変調療法 高石 敏昭	286
アレルギー性疾患患者に対する心理療法ーアプローチの仕方とその有効性 吾郷 晋浩	288
〈治療の実際〉	
成人の気管支喘息 一一般的治療 奥平 博一	292
一発作に対する治療 真野 健次・他	298
小児の気管支喘息 一一般的治療 赤澤 晃・他	298
一発作に対する治療 加野 草平・他	302
運動誘発喘息 永倉 俊和・他	306
花粉症 斎藤 洋三	308
通年性の鼻アレルギー 高木 一平・他	312
蕁麻疹 山本 昇壯	314
アトピー性皮膚炎 前田 啓介・他	316
接触皮膚炎 中山 秀夫	320
薬剤のアレルギー 田所 憲治	322
アスピリン喘息 末次 勸	326
食物アレルギー 馬場 実	328
運動誘発アナフィラキシー 須甲 松伸	331
職業アレルギー 城 智彦	334
過敏性肺臓炎 大田 健	338
PIE症候群 工藤宏一郎	342
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 秋山 一男	346
アレルギー性結膜炎 湯浅武之助	348
昆虫アレルギー 木野 稔也	350
アレルギー患者の妊娠および出産時の管理 美田 俊一・他	354
〈今月の主題・理解のための10題〉 伊藤 幸治	356
最新の肺癌診療(3)	
〈Editorial〉肺癌診療の動向 渡辺古志郎	386
肺癌の疫学ー組織型別の動向とそのリ	

スクファクター	津金昌一郎	388	下痢と便秘の対症療法	酒井 義浩	574	経口胆石溶解剤の使い方	田中 直見	682
肺癌の集検	守谷 欣明	392	抗癌剤投与による嘔気・嘔吐の対症療法	相澤 信行	578	急性胆嚢炎, 胆管炎における抗生物質の使い方とその限界	伊藤 慎芳	686
〈的確な診断〉			腹部不定愁訴の対症療法	宮原 透	581	〈痔疾患〉		
X線写真の読み方と確定診断の進め方	大松 広伸・他	396	〈消化管運動機能障害〉			急性痔炎の薬物療法—その効果と限界	北川 元二・他	689
肺野小型肺癌のCT診断—CTでどこまで診断できるか	山田 耕三・他	406	消化管運動調節剤の使い方	関口 利和・他	584	慢性痔炎の薬物療法	杉山 恵一・他	694
肺門部早期肺癌の気管支ファイバー	スコープ診断 雨宮 隆太・他	414	胃食道逆流疾患と食道運動機能疾患における薬の使い方	本郷 道夫	589	〈消化器検査のための薬の使い方〉		
肺門・縦隔リンパ節転移の画像診断	松井 英介	420	過敏性腸症候群における薬の使い方	佐々木大輔	593	上部消化管造影, 食道・胃・十二指腸内視鏡検査のための前投薬の使い方	杉野 吉則	698
経気管支穿刺吸引法, 縦隔鏡検査の有用性と限界	楠 洋子・他	426	〈消化性潰瘍とその類縁疾患〉			注腸X線検査, 大腸内視鏡検査のための前処置と前投薬の使い方	多田 正大	700
心縦隔浸潤の画像診断	森 裕二・他	430	消化性潰瘍の薬物療法の基本	岡崎 幸紀	596	ヨード系造影剤の使い方, 副作用とその対策	木村 文子・他	704
新技術を応用した肺癌の早期発見	金子 昌弘・他	434	H ₂ ブロッカーの効果とその限界	谷 礼夫	600	〈消化器薬の Minimum Requirement〉	上野 文昭	706
肺癌遠隔転移検索の臨床的意義	一瀬 幸人・他	440	H ₂ ブロッカー以外の抗潰瘍薬とその使い方	寺野 彰	605	〈Q&A〉		
癌性心のう炎, 癌性胸膜炎の診断と治療	野田 和正・他	444	胃潰瘍と十二指腸潰瘍の薬物療法の相違点	野村喜重郎	610	1. 腹痛の対症療法をとしてはいけない場合を教えてください	大貫 寿衛	573
Paraneoplastic syndrome	中田紘一郎・他	448	消化性潰瘍の再発予防	安海 義曜	612	2. 妊娠時の嘔気・嘔吐の治療でとくに注意しなければならないことはありますか?	相澤 信行	580
〈最新の治療〉			出血性消化性潰瘍の薬物療法の効果と限界	丸山 正隆	616	3. 「腹部不定愁訴」の簡単な定義を教えてください	宮原 透	583
現在の肺癌治療のコンセンサス	児島 章・他	452	急性胃粘膜病変(AGML)の薬物療法	野見山 哲	620	4. アカラシアや食道痙攣などの薬物療法はどの程度効果的ですか?	本郷 道夫	592
小細胞癌の治療	近藤 英樹・他	454	消化性潰瘍治療剤の予防的投与の適応と効果	井上 正規	624	5. 過敏性腸症候群の診断基準について簡単に教えてください	佐々木大輔	595
非小細胞癌の治療	国頭 英夫	462	Helicobacter pylori に対する薬物療法	中島 卓利・他	628	6. 抗潰瘍薬を何種類か同時に用いると, その分効き目がよくなりますか?	岡崎 幸紀	599
肺癌の手術療法	成毛 韶夫・他	468	〈腸疾患〉			7. 何種類かあるH ₂ ブロッカーの状況に応じた使い分けは必要ですか?	谷 礼夫	603
Neoadjuvant, Adjuvant 化学療法	西山 祥行・他	472	炎症性腸疾患の薬物療法の基本	朝倉 均	630	8. 消化性潰瘍の治療に粘膜防御因子増強剤を単独で用いることもありますか?	寺野 彰	609
肺癌に維持療法は必要か	田村 友秀・他	478	炎症性腸疾患におけるステロイドの使い方	馬場 忠雄	637	9. 消化性潰瘍の維持療法を続けるのと手術をするのと, どちらが経済的ですか?	安海 義曜	614
肺癌患者の疼痛対策	水口 公信	482	炎症性腸疾患におけるサラゾピリンの使い方	北野 厚生・他	640	10. 感冒薬や鎮痛剤を処方するとき, ルーチンで胃薬も処方すべきですか?	井上 正規	626
肺癌治療における消化器症状対策	弦間 昭彦・他	486	炎症性腸疾患の薬物療法の境界と栄養療法	平川 博之・他	644	11. 潰瘍性大腸炎とクローン病の薬物療法の違いについて教えてください	朝倉 均	635
肺癌治療における Informed consent	久保幸いづみ・他	490	炎症性腸疾患に対する新しい治療薬の展望	北洞 哲治・他	648	12. ステロイド浣腸はどのようにときに適応となりますか?	馬場 忠雄	639
肺癌患者の Quality of Life	吉田 清一	494	感染性腸炎の治療	森下 鉄夫・他	650	13. サラゾピリンの使い方での難しい点を具体的に教えてください	北野 厚生	643
肺癌のレーザー療法	加藤 治文・他	500	短腸症候群の治療	三浦総一郎・他	654			
〈トピックス〉			〈肝疾患〉					
肺癌とモノクローナル抗体	岡部 哲郎	504	ウイルス肝炎に対する一般薬物療法の効果と限界	渡辺 明治・他	658			
肺癌の腫瘍マーカー	有吉 寛	508	慢性肝炎のウイルス療法	小俣 政男	662			
肺癌の前癌病変	児玉 哲郎	512	自己免疫性肝炎の薬物療法	林 直諒	666			
肺小細胞癌の生物学的特性	下里 幸雄	516	アルコール性肝障害の薬物療法	重田 洋介	668			
〈今月の主題・理解のための10題〉			肝内胆汁うっ滞の薬物療法	戸田剛太郎・他	670			
	渡辺吉志郎	518	肝性脳症の薬物療法	与芝 真	674			
消化器薬の使い方—その効果と限界(4)			肝性腹水の薬物療法	松嶋 喬	677			
〈editorial〉消化器薬の使い方—その効果と限界	上野 文昭	566	食道静脈瘤に対するバソプレシンの止血効果と β ブロッカーの出血予防効果	六倉 俊哉	680			
〈消化器症状の対症療法〉			〈胆道系疾患〉					
対症療法の適応と限界	菅田 文夫	568						
腹痛の対症療法の考え方・行い方	大貫 寿衛	570						

14. 感染性腸炎で抗生物質が適応となる場合、ならない場合を教えてください 森下 鉄夫 653	進展を阻止しうるか 佃 克則・他 805	清水 倉一 936
15. ウイルス肝炎に対する薬物療法の基本的な考え方のこの10年程の変化を教えてください 渡辺 明治・他 660	糖尿病性網膜症への対応 高塚 忠宏 808	一電解質調節と電解質代謝異常 大和田 章・他 942
16. 抗ウイルス療法の効果がとくに期待できそうな subgroup があれば教えてください 小俣 政男 664	糖尿病性腎症—自然経過と早期発見法 堀出 直樹・他 812	一酸塩基平衡とその異常 北岡 建樹 946
17. 慢性胆汁うっ滞で吸収が障害される栄養素とその補給法を教えてください 戸田剛太郎 672	糖尿病性腎症—食事療法のあり方 中尾 俊之 814	投与された Na, N を尿中に排泄するのに必要な尿量の求め方 齊藤 博 950
18. 肝性腹水に対するアルブミンの適正な使用法を教えてください 松嶋 喬 679	網膜症、腎症を有する糖尿病患者の身体活動—許容量の決め方 布井 清秀 817	体液欠乏量の求め方 飯田 則利・他 952
19. 経口胆石溶解剤はどれぐらい長期間続けなければならないのですか？ 田中 直見 684	虚血性心疾患を有する糖尿病患者の運動療法 三田村秀雄 820	輸液量と輸液組成の決め方 古屋 清一 956
20. 急性肺炎の重症度により薬物療法は異なりますか？ 北川 元二 692	糖尿病による消化管障害の治療 本郷 道夫・他 822	輸液療法のモニタリング 松川 重明 960
	神経障害—早期発見のための検査法 鈴木 吉彦 826	輸液製剤の分類と特性 清水 禮壽・他 964
	有痛性神経障害の薬物療法 姫井 孟・他 828	輸液療法の合併症とその対策 申 性孝・他 970
	糖尿病患者の足の予防と指導 渥美 義仁 832	〈高カロリー輸液の進め方〉 高カロリー輸液を始める必要のある患者へのアプローチ 小野寺時夫 974
	糖尿病を伴った高血圧患者の治療 猿田 享男 834	栄養アセスメント 根津理一郎・他 978
	糖尿病患者に合併する高脂血症の治療 中井 継彦・他 838	適正投与量の決め方 —カロリー、糖、アミノ酸、脂肪 真島 吉也 982
	高インスリン血症と動脈硬化症 細川 和広 840	—Ca, Mg, P, 微量元素とビタミン 柏崎 修・他 986
	血小板・内皮細胞相関と血管障害—Aspirin, Dipyridamole は有効か 久保 明 843	高カロリー輸液製剤の分類と特性 長谷部正晴 991
	〈生活指導〉 糖尿病患者の生活指導の考え方 松岡 健平 846	高カロリー輸液の手法とその管理法 前田 純・他 998
	思春期の IDDM 患者の日常生活の指導指針 池内 優仁・他 848	高カロリー輸液療法のモニタリング 竹山 廣光・他 1003
	妊娠、分娩時に注意すべきこと 大塚 博光・他 850	在宅中心静脈栄養法 (Home Parenteral Nutrition) 高木 洋治・他 1006
	〈最近の話題から〉 インスリン受容体遺伝子、膵アミロイドと糖尿病 牧野 英一 852	高カロリー輸液療法の合併症と対策 溝手 博義・他 1012
	〈鼎談〉 糖尿病診療の実践—ケアと教育へのアプローチ 金澤 康德・守屋美喜雄 松岡 健平 856	〈各種病態における輸液療法の実際—私の処方〉 低 Na 血症の是正 石田 尚志・他 1016
	〈今月の主題・理解のための10題〉 松岡 健平 866	高 Na 血症の是正 竹内 正至・他 1019
		低 K 血症の是正 安藤 明利・他 1022
		高 K 血症の是正 塚本 雄介 1025
		アシドーシスの是正 永野 正史・他 1028
		アルカローシスの是正 花井 順一・他 1032
		嘔吐と下痢の輸液療法 高添 正和・他 1036
		心不全の輸液療法 須藤 憲一 1040
		呼吸不全の輸液療法 福井 俊夫 1044
		腹水貯留肝硬変症の輸液療法 三浦総一郎・他 1046
		腎不全の輸液療法 武田 茂幸・他 1050
		糖尿病の輸液療法 窪倉 俊隆・他 1052
		脳卒中の輸液療法 池田 秀敏・他 1056
		高齢者の輸液療法 東 徹 1058
		ショックと輸液療法 相川 直樹・他 1062
糖尿病診療の実践 (5)		
〈Editorial〉糖尿病の予防と治療より見た病型分類への展望 松岡 健平 752		
〈糖尿病診断の実践〉		
日常診療における糖尿病診断 岩本 安彦 756		
糖尿病のスクリーニングと管理 立道 昌幸 760		
境界型例の経過観察と患者指導 関川 暁・他 764		
〈血糖コントロールのために〉		
治療の基本設計 鈴木 進・他 766		
治療への動機づけをどうするか 坪井 修平・他 770		
食事療法の基本と指導方針 山吹 隆寛・他 773		
肥満糖尿病例の対策 三浦 順子・他 776		
運動療法の指導とその理論的背景 藤井 暁 778		
経口血糖降下薬の使い方 山東 博之 781		
NIDDM のインスリン療法 河盛 隆造 784		
インスリン注射療法の指導 中山 秀隆・他 788		
IDDM の血糖コントロールのアルゴリズム 河盛 隆造 792		
経過観察のために必要な検査とその評価—代謝指標 荷見 澄子・他 796		
高齢者糖尿病の治療の考え方 北村 信一 798		
〈合併症への対応〉		
糖尿病エマージェンシー—予防と治療 坂本 美一 800		
血糖コントロールは合併症の発症と		

重症感染症の輸液療法	
小野 聡・他	1066
癌患者の輸液療法	五関 謹秀・他
1070	
〈今月の主題・理解のための代表的臨床 床例 10 題〉	齊藤 博
1074	
リンパ系疾患の臨床 (7)	
〈editorial〉リンパ系疾患へのアプロ ーチ	北原 光夫
1128	
〈リンパ系疾患の基礎〉	
リンパ球の産生と分布	三方 淳男・他
1132	
リンパ球の生物学的反応	
—T-cell の抗原受容体	岩井 一宏・他
1134	
—B-cell と免疫グロブリン	近藤 直実
1138	
免疫応答とマクロファージ	坂戸 信夫・他
1141	
インターロイキンと役割	嶋本 義範
1146	
免疫不全症候群の分類とまとめ	矢田 純一
1150	
染色体異常とリンパ系悪性腫瘍	大屋敷一馬・他
1156	
〈リンパ系疾患の診断〉	
リンパ節腫大のある症例への対応	山口 潜
1160	
リンパ系疾患の診断的検査方法	小川 啓恭・他
1165	
血液像から得られる情報	原田 契一
1168	
表面マーカーと臨床的意義	杉村 和久
1170	
画像診断の利用と限界	古寺 研一
1176	
〈リンパ系疾患診療の実際〉	
急性リンパ性白血病(ALL)	
ALL の FAB 分類	福谷 久・他
1178	
小児急性リンパ性白血病	松下 竹次・他
1181	
成人急性リンパ性白血病	大野 竜三・他
1188	
慢性リンパ系白血病	
慢性リンパ系白血病の分類とまとめ	望野 唯明・他
1194	
慢性リンパ性白血病(CLL)	石山泰三郎・他
1198	
Prolymphocytic leukemia (PLL)	早田 央・他
1202	
Hairy cell leukemia (HCL)	青木 定夫
1204	
Large granular lymphocyte leukemia	谷本 光音
1206	
Sézary syndrome	古沢 新平・他
1208	
リンパ腫	
非 Hodgkin リンパ腫 (NHL) の 分類とまとめ	竹内 仁・他
1214	
B-cell リンパ腫	林 恭一・他
1220	
T-cell リンパ腫	大野 敏之・他
1224	
成人 T 細胞白血病 (ATL)	

服部 俊夫	1229
Angioimmunoblastic lymphadenop athy (AIL)	別所 正美
1232	
Hodgkin 病	近藤 誠
1234	
骨髄腫と関連疾患	
多発性骨髄腫	高橋 幸則
1236	
Waldenström (原発性) マクログロ ブリン血症	加納 正
1238	
ウイルス感染症とリンパ球	
Epstein-Barr Virus 感染と伝染性 単核症, リンパ系増殖疾患	北原 光夫
1240	
HTLV-I 感染とリンパ系	田口 博國
1244	
HIV 感染と AIDS	松下 修三
1248	
〈リンパ系疾患の治療の話題〉	
インターフェロンとリンパ系疾患	岡本真一郎
1252	
Large cell lymphoma と化学療法 の進歩	大賀 泰亮
1254	
自家骨髄移植とリンパ腫	中尾 真二・他
1256	
HIV 感染と抗ウイルス剤	根岸 昌功
1260	
心不全へのアプローチ (8)	
〈Editorial〉心不全治療の新しい展開	篠山 重威
1314	
〈心不全の理解のために〉	
心不全とは	飯塚 昌彦
1320	
心不全時の心臓の機能、代謝障害	友田 春夫
1322	
心不全時の神経体液性障害	夏目 隆史
1324	
心不全の原因となる心疾患	芹澤 剛
1326	
心不全の原因となる非心疾患	岡田 雅彦・他
1328	
心不全の原因となる内科治療	
—iatrogenic に心不全を惹起する	
内科的治療	宇井 克人・他
1331	
心不全治療と長期予後	藤田 正俊
1334	
〈急性心不全の診断と治療〉	
急性左心不全の診断	木村 剛
1336	
急性左心不全の治療方針と救急処置	柳瀬 治・他
1340	
急性右心不全の診断と治療	早崎 和也
1344	
〈慢性心不全の診断と重症度評価〉	
症状から	西永 正典・他
1348	
理学的検査から	玉井 秀男
1350	
非侵襲的検査から	永田 正毅・他
1352	
侵襲的検査から	弘田 雄三
1354	
重症度分類	田口 淳一
1356	
〈慢性心不全の治療指針〉	
慢性心不全の治療方針	半田俊之介・他
1360	
慢性期心不全の誘因・増悪因子	出川 敏行
1364	
老年者心不全の治療	桑島 巖
1366	

虚血性心疾患の心不全治療	鷹津 文磨
1368	
拡張型心筋症と類似疾患の心不全 治療	古賀 義則・他
1372	
肺性心の心不全治療	上田 国彦・他
1376	
〈薬物治療—適応, 使い方, 副作用〉	
利尿剤	田村 勤
1378	
ジギタリス	諸岡 成徳
1382	
血管拡張薬	楯久保 修・他
1384	
カテコラミン	佐藤 光・他
1387	
α 遮断薬, β 遮断薬	横田 慶之
1390	
代謝改善薬	山沖 和秀・他
1394	
抗不整脈薬の選択	長谷川彰彦・他
1400	
〈重症心不全の治療〉	
電解質, 代謝異常への対策	岩瀬 孝・他
1403	
呼吸管理	竹永 誠・他
1407	
IABP	平山 治雄
1410	
血液透析, 濾過法	梅津 道夫
1413	
〈心不全患者のケア〉	
入院治療のタイミング	有馬 新一・他
1416	
慢性心不全患者に対する運動療法	小川 剛・他
1418	
外来での生活指導	野村 雅則
1422	
心不全患者の外科手術	小泉 克己
1424	
〈座談会〉	
慢性心不全の治療	半田俊之介・大川真一郎
1426	
〈今月の主題・理解のための 10 題〉	山口 徹
1438	
大腸疾患診療の新時代 (9)	
〈Editorial〉日本人の大腸疾患の 新時代	吉田 豊
1490	
〈内科医のための大腸疾患診断実践講座〉	
大腸疾患の疫学: 診断の第一歩は まず疫学を知ることから	深尾 彰・他
1494	
これだけは知っておきたい病歴・身 体所見・ルーチン検査のチェック ポイント: とくに大腸癌を見落とさ ないために	上野 文昭
1498	
大腸疾患診断のための検査の組み立 て方	桜井 幸弘
1502	
大便の一般検査と微生物学的検査を 見直そう	伊藤 機一・他
1506	
便潜血検査と大腸癌スクリーニング	塩飽 徳行・他
1510	
腹部エコーと CT 画像でわかる大 腸病変	水野 富一
1514	
大腸癌と腫瘍マーカー: 診療にどう 用いるか	大倉 久直・他
1520	
〈よくある大腸疾患: 日常診療の視点から〉	
よくある下痢の診断と治療	森下 鉄夫・他
1522	
よくある便秘の診断と治療	平塚 秀雄
1526	

薬剤による下痢と便秘 佐竹 儀治 1530	予防的投与の実際 廣田 正毅 1682	よくわかる内分泌疾患(12)
日常診療における過敏性腸症候群の 捉え方 北洞 哲治・他 1534	感受性検査の読み方 熊坂 一成・他 1684	〈Editorial〉一般診療において内分泌 疾患を見逃さないために 阿部 好文 1843
日常診療における大腸憩室症の捉え 方 勝又 伴栄・他 1538	〈気道感染症〉	〈内分泌疾患発見のきっかけ〉
薬剤性大腸炎の診断と治療 高橋 幸則 1686	気道感染症へのアプローチ	顔貌・体型 金森 晃 1848
林 繁和 1542	急性上気道感染症と気管支炎の治療	皮膚症状 西岡 清 1852
感染性腸炎と化学療法 大貫 寿衛 1546	力富 直人 1692	〈隠れた内分泌疾患を見つけるコツ〉
炎症性腸疾患：今日の標準的診断と 治療 朝倉 均 1550	市中肺炎の治療 新実 彰男・他 1696	肥満 斎藤 真理・他 1854
虚血性大腸病変：今日の標準的診断 と治療 馬場 理加・他 1556	急速に悪化する肺炎の治療 渡辺 彰 1700	やせ 鈴木 裕也 1856
大腸ポリープと大腸癌：今日の標準 的診断と治療 小林 世美 1560	院内感染肺炎の診断と治療	低身長 肥塚 直美 1859
内科医に必要な大腸ポリポーシスの 基礎知識 鈴木荘太郎 1564	澤江 義郎 1704	発熱・感冒様症状 西川 光重・他 1862
Simple ulcer とその周辺疾患の診断	急性白血病に合併した肺炎の治療	けいれん、麻痺 塚本 雄介 1867
今井 裕・他 1568	大本英次郎・他 1708	倦怠感、ぼけ 久保 明 1870
内科診療でよくみる全身疾患と大腸 病変 六倉 俊哉 1572	X線所見からの肺炎へのアプローチ	多毛、脱毛 土師 正文・他 1872
日常診療でよく使われる大腸疾患治 療薬の基礎知識 高橋 裕・他 1576	渡辺 文彦・他 1710	多尿 中山 昌明・他 1875
〈大腸疾患診療：現在から近未来まで〉	〈消化管感染症〉	性欲低下 薬師寺史厚・他 1878
大腸運動機能と直腸肛門機能からみ た慢性便秘 佐々木大輔・他 1579	細菌感染症へのアプローチ	肝機能障害 吉村 弘・他 1880
大腸疾患への免疫学的アプローチ	味澤 篤 1718	ステロイド離脱症候群を考えるべき とき 田中 廣壽・他 1882
日比 紀文・他 1582	外国旅行と下痢 金城 福則 1724	〈内分泌疾患のスクリーニング検査から 鑑別診断まで〉
炎症性腸疾患治療薬の新時代	病原性大腸菌と消化管	下垂体腫瘍を発見したとき
松本 誉之・他 1585	橋本起一郎・他 1727	石橋みゆき 1884
炎症性腸疾患における在宅経腸栄養 法の将来 平川 博之・他 1588	抗生剤と下痢 黒田 芳信・他 1730	正しい甲状腺の触診のしかた
分類困難な大腸炎・潰瘍性病変	〈肝・胆道系感染症〉	小原 孝男 1891
藤沼 澄夫・他 1591	肝腫瘍の診断と治療	結節性甲状腺腫を診たとき
大腸の平坦・陥凹型早期癌：幻から 実在へ 工藤 進英・他 1594	内田 重行・他 1732	紫芝 良昌 1894
微小大腸癌(5 mm 以下)の内視鏡 診断と治療 岡本 平次 1602	胆嚢炎・胆管炎の治療 牧野 勲 1736	バセドウ病を疑ったとき
内視鏡的ポリペクトミーで根治でき る大腸癌 多田 正大・他 1604	〈中枢神経系感染症〉	葛谷 信明 1901
最近海外で注目されている大腸疾患	中枢神経系感染症へのアプローチ	高カルシウム血症 木村 哲・他 1904
霞 朝雄 1607	北川 泰久 1738	低カルシウム血症 森 聖子・他 1907
大腸外科の近未来への動向	髄膜炎の治療 小林 芳夫 1746	クッシング症候群を疑ったとき
雨宮 厚・他 1610	space occupying lesion と発熱	田中 孝司・他 1910
〈座談会〉	長沢 浩平 1748	原発性アルドステロン症を疑った とき 小島 元子 1916
大腸疾患診療の controversy	〈尿路感染症〉	褐色細胞腫を疑ったとき
酒井 義浩・久道 茂 1613	尿路感染症へのアプローチ	大石 誠一・他 1920
光島 徹・上野 文昭 1613	村井 勝 1752	〈画像診断〉
臓器感染症と抗生物質の選択(10)	男性の尿路感染症 岡田 敬司 1757	一般 X 線検査から内分泌疾患を 発見するコツ 逸見 浩美・他 1924
〈editorial〉臓器感染症へのアプローチ	女性の尿路感染症 上間 健造 1760	下垂体 CT・MRI の見方
北原 光夫 1663	糖尿病と尿路感染症 武村 次郎 1763	菅 信一 1930
〈感染症と抗生剤の選択〉	〈皮膚・軟急組織感染症〉	副腎 CT・MRI の見方
オフィスプラクティスにみる感染症 と抗生剤 吉原幸治郎・他 1666	皮膚・軟急組織感染症へのアプ ローチ 渡辺健太郎 1766	小林 成司・他 1934
院内感染症と抗生剤の選択	糖尿病と軟部組織感染症	甲状腺超音波検査の見方
深谷 一太 1671	熊倉 忍・他 1770	貴田岡正史 1941
抗生剤の併用療法と有効性	褥瘡の治療 小泉雄一郎 1773	インビボ核医学検査の見方
和田 光一・他 1674	〈その他の感染症の治療〉	笠木 寛治・他 1946
抗生剤の変更・追加・終了のタイミ ング 根岸 昌功 1678	原因菌判明前の敗血症の治療	〈内分泌疾患治療の進歩〉
	澤木 政好 1776	成長ホルモンの適応 高野加寿恵 1952
	心内膜炎の治療 小林 芳夫 1778	LH-RH 療法 中井 義勝 1956
	不明熱への対策 高野 慎 1780	尿崩症・SIADH の治療
	真菌感染症の治療 舟田 久 1782	長坂昌一郎・他 1958
	免疫不全症と感染症の治療	甲状腺ホルモン剤、抗甲状腺剤の 使い方 高須 信行・他 1962
	青木 泰子 1784	妊娠時の甲状腺疾患の治療
	院内感染の overview 林 泉 1791	百瀬 尚子 1968
	MRSA 感染症 小田切繁樹 1799	悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症の
	〈抗生物質の使い方 Q&A〉	
	北原 光夫 1804	

治療	佐藤 幹二 1972
〈最近のトピックス〉	
抗下垂体抗体	小林 功 1976
甲状腺ホルモン不応症	中村 浩淑 1978
甲状腺ホルモンと骨粗鬆症	
伴 良雄・他 1980	
高カルシウム血症と PTHrP	
長崎 光一・他 1982	
偶発性副腎腫瘍の扱い方	
西川 哲男・他 1986	
甘草エキスによる偽アルドステロン症	
宮森 勇・他 1988	
〈座談会〉	
日常診療における内分泌疾患一どのように内分泌疾患を発見するか	
佐藤 幹二・鈴木 洋通	
福山 次郎・阿部 好文 1992	
〈今月の主題・理解のための 10 題〉	
阿部 好文 2006	
高血圧治療の実際と新たな展開 (13)	
〈Editorial〉高血圧治療の問題点	
藤田 敏郎 2034	
〈疫 学〉	
わが国における高血圧管理の現況	
柴田 博 2036	
高血圧の予後一危険因子としての高血圧	
大森 将・他 2039	
〈診断のためのステップ〉	
高血圧治療における家庭血圧測定の意義	
島田 和幸 2042	
高血圧検査法の最近の進歩一二次性高血圧の鑑別	
木村 桂三・他 2046	
〈治 療〉	
高血圧治療の進め方	猿田 亨男 2050
患者コンプライアンスを高めるには	
道場 信孝 2053	
降圧薬の減量と休止について	
杉本徳一郎・他 2056	
高血圧治療と quality of life	
藤井 潤 2059	
高血圧治療中に注意すべきポイント	
倉持 衛夫 2062	
〈非薬物療法〉	
高血圧食事療法の実際とその限界	
吉村 学 2064	
運動療法の適応と効果	
斉藤 俊弘・他 2068	
高血圧治療における肥満とその対策	
久代登志男・他 2072	
高血圧と喫煙, 飲酒, ストレス	
一生活指導	斉藤 郁夫 2076
〈薬物療法〉	
薬物療法の進め方	安東 克之・他 2078
利尿薬の問題点と有用性	
日和田邦男 2082	
β 遮断薬の使い方のこつ	
築山久一郎・他 2086	
Ca 拮抗薬の使い方のこつ	
鈴木 哲・他 2090	

変換酵素阻害薬の使い方のこつ	
島本 和明・他 2094	
降圧薬の作用に影響を与える薬剤	
海老原昭夫 2098	
降圧薬の併用療法における留意点	
三上 洋・他 2102	
〈特殊な高血圧の治療〉	
白衣高血圧における治療の意義	
片山 茂裕 2106	
老年者の高血圧における治療の考え方	
大内 尉義 2100	
小児高血圧の管理上の問題点	
雨宮 伸 2114	
高血圧緊急症の治療	瀧下 修一 2118
腎血管性高血圧の治療方針	
江藤 嵐尚 2122	
ミネラルコルチコイド過剰による高血圧の診断と治療	
上田 美樹・他 2126	
高血圧患者における手術前の血圧管理	
菊池健次郎・他 2130	
〈合併症を伴う高血圧の治療〉	
脳血管障害後の高血圧治療	
高野健太郎・他 2134	
心疾患を伴った高血圧治療の実際	
佐野 博志・他 2138	
腎機能障害のある高血圧患者の治療の実際	
鈴木 洋通 2142	
糖尿病を伴った高血圧の治療	
竹田 亮祐 2144	
高血圧と高脂血症を合併した症例の治療	
大荷 満生・他 2148	
〈鼎 談〉	
高血圧治療のポイント	
三浦 幸雄・栃久保 修	
藤田 敏郎 2152	
〈今月の主題・理解のための 10 題〉	
安東 克之・他 2170	
〈Q&A〉	
高血圧はなぜ治療するのですか,	
上田 一雄 2038	
家庭血圧測定の指導とその評価は,	
島田 和幸 2044	
高血圧患者の初診時のチェックポイントは,	
西尾 一郎 2048	
降圧治療に精神安定剤を用いてよいでしょうか,	
藤井 潤 2061	
K, Ca や Mg の摂取は高血圧の食事療法として有効か,	
吉村 学 2067	
臥位血圧と坐位血圧との違いについて,	
久代登志男 2067	
高血圧を合併した妊婦に対して使用してよい降圧薬は,	
斉藤 郁夫 2084	
『J 型カーブ』とは何ですか,	
築山久一郎 2088	
睡眠時無呼吸症候群とは何ですか,	
片山 茂裕 2092	
24 時間携帯型自動血圧計にはどのようなものがありますか,	
島本 和明 2096	

無症候性ラクネとは何ですか,	
和田 博夫 2112	
高血圧は男性に多く女性に少ないのはなぜですか,	
安東 克之 2129	
血圧の正しい測定法は,	
菊池健次郎 2132	

〔カラーグラフ〕

冠動脈造影所見と組織像の対比／

堀江 俊伸

23. CABG一内胸動脈使用例	186(1)
24. 内胸動脈バイパスグラフト狭窄に対する PTCA	360(2)
25. Vineberg の手術	522(3)
26. 胃大網動脈を使用した冠動脈バイパス手術	710(4)
27. 冠動脈内膜剥離術	872(5)
28. 冠攣縮性狭心症	1084(6)
29. 大動脈炎症候群の冠動脈病変	1264(7)
30. 弾性線維性仮性黄色腫の心血管病変	1442(8)
31. Marfan 症候群の冠動脈病変	1630(9)
32. Directional Coronary Atherectomy	1808(10)
33. PTCA 施行後の再狭窄に対する Atherectomy	2010(12)
34. 冠動脈バイパスグラフト狭窄に対する PTCA	2178(13)

Oncology Round

15. 胆管細胞癌の疑われた肝細胞癌の 1 例	折笠 英紀・他 364(2)
16. Meigs 症候群を呈した卵巣英膜細胞腫	菅 三知雄 721(4)
17. 肛門外表面に Paget 病を伴った直腸癌	山科 元章・他 876(5)
18. アミラーゼ産出性若年型肺癌の 1 例	前田昭太郎・他 1089(6)
19. 上大静脈症候群を伴った悪性胸腺腫の 1 例	
時松 秀治・他 1275(7)	
20. 縦隔に初発する NS 型ホジキン病	赤塚 誠哉・他 1819(10)

非観血的検査法による循環器疾患の総合診断

興味ある左室流入様式の変化を示した拡張型心筋症の 1 例
大木 崇・他 532(3)

〔グラフ〕

内科医のための胸部 X-P 読影のポイント

1. 胸部 X-P 読影の基本	
泉 孝英 725(4)	
2. 肺炎球菌肺炎	
池田 顕彦・他 880(5)	
3. マイコプラズマ肺炎	

- 月野 光博・他 1094(6)
 4. オウム病 鶴田 良介・他 1280(7)
 5. 肺癌(1)―結節影症例
 松井祐佐公・他 1460(8)
 6. 肺癌(2)―塊状影症例
 松井祐佐公・他 1640(9)
 7. 肺癌(3)―無気肺症例
 松井祐佐公・他 1824(10)
 8. 肺癌(4)―肺癌に合併した縦隔
 陰影 小山 弘・他 2014(12)
 9. 肺癌(5)―転移癌症例
 松井祐佐公・他 2188(13)

〔演習〕

目でみるトレーニング

- 高松 順太・他 526(3)
 大高 正裕・他 714(4)
 竹内 勝啓・他 1268(7)
 山崎 公恵・他 1446(8)
 坂谷 光則・他 1634(9)
 西村 忠史・他 1812(10)
 西村 忠史・他 2182(13)

心エコー図演習

- 井内 新・他 1101(6)
 小川 聡・他 1453(8)

吉田 清 2195(13)

実践診療 EXERCISE

- 外山 学・他 543(3)
 植竹 健司・他 903(5)
 矢木 晋・他 2021(12)

〔講座〕

図解病態のしくみ 膠原病

6. 多発性筋炎・皮膚筋炎
 戸叶 嘉明 194(1)
 7. シェグレン症候群
 杉本 正毅・他 732(4)
 8. 血管炎症候群 橋本 博史 885(5)
 9. MCTD(Mixed Connective
 Tissue Disease)
 高崎 芳成 1108(6)
 10. 膠原病周辺疾患―血清反応陰性
 関節炎 小林 茂人・他 1288(7)
 11. 膠原病周辺疾患―パーチェット
 病 平野 隆雄・他 1466(8)

検査データをどう読むか

- 露岡 清隆・他 550(3)
 露岡 清隆・他 898(5)
 橋本 琢磨 1474(8)

橋本 琢磨 1830(10)

血液疾患診療メモ

- 岡田 定 190(1)
 岡田 定 372(2)
 岡田 定 556(3)
 岡田 定 740(4)
 岡田 定 913(5)
 岡田 定 1116(6)
 岡田 定 1302(7)
 岡田 定 1477(8)
 岡田 定 1648(9)
 岡田 定 2201(13)

循環器疾患診療メモ

- 山科 章・他 370(2)
 佐藤 裕史・他 970(5)
 高尾 信廣・他 1298(7)
 高尾 信廣・他 1480(8)

呼吸器疾患診療メモ

- 宮城征四郎 374(2)
 喜屋武幸男・他 910(5)
 喜屋武幸男・他 1295(7)
 宮城征四郎 1652(9)
 宮城征四郎 2204(13)